

季節	名称	時節	説明
春	立春 (りっしゅん)	2/4頃	春の気が立つの意、冬と春の分かれ目。節分の翌日、旧正月の正節。暖かい地方では梅が咲き始める。
草木の芽が張る、田畑を墾(は)る、気候の晴る意から	雨水 (うすい)	2/19頃	冷たい氷も解けて水となり、雪も雨に変わるという意。春一番が吹き、うぐいすが鳴き始める。
	啓蟄 (けいちつ)	3/6頃	冬眠していた虫も目を覚まし、地上に這い出てくるという意。
	春分 (しゅんぶん)	3/21頃	太陽が春分点に達した時。昼夜の長さが等しい。彼岸の中日。花冷え、寒の戻りのある頃。
	清明 (せいめい)	4/5頃	草花が咲き始め、万物清新の気に満ちあふれるという意。百花咲き行楽の好時節。
	穀雨 (こくう)	4/20頃	雨が農作物を盛んに成長させるという意。春の最後季節の最後。柔らかな春の雨。日差しが強まり始める。
夏	立夏 (りっか)	5/6頃	夏の気が立ち始めるという意。かえるが鳴き始め、竹の子が生えてくる頃。
暑(あつ)、生(な)る、熱(ねつ)から	小満 (しょうまん)	5/21頃	万物成長し、実をつけ始め、陽気盛んとなり満つるという意。西日本でははしり梅雨が現れる頃。
	芒種 (ぼうしゅ)	6/6頃	稲、麦などの芒(のぎ・穂先の固い毛)のある作物の種を蒔く頃という意。
	夏至 (げし)	6/21頃	北半球では、昼が長く、夜が最も短い日。梅雨期でうっとうしい日が続く。花しょうぶや紫陽花などの雨の似合う花が咲く季節。
	小暑 (しょうしょ)	7/7頃	本格的に暑くなってくるという意。梅雨明け間近で集中豪雨の頃。蓮の花が咲き、蟬の合唱が始まる。
	大暑 (たいしょ)	7/23頃	太陽が黄経120度に達した時。暑気盛んになり、酷暑の季節という意。夏の土用の時期。学校は夏休みに入る。
秋	立秋 (りっしゅう)	8/8頃	秋の気が立つという意。一年で一番暑い頃で、この日から残暑見舞いとなる。
秋空が明らか、収穫が飽(あ)き満ちる、草木の葉の紅(あか)くなる意から	処暑 (しよしょ)	8/23頃	暑気がやむという意。萩の花が咲き、朝夕は心地よい涼風が吹く頃。台風シーズン。
	白露 (はくろ)	9/8頃	秋の陰の気が積もって露を結ぶという意。朝夕に心地よい涼風が吹き、秋の趣がひとしお感じられる頃。
	秋分 (しゅうぶん)	9/23頃	太陽が秋分点に達した時。昼夜の長さが等しい。秋彼岸の中日。秋の七草が咲き揃う頃。
	寒露 (かんろ)	10/8頃	冷氣次第に深まり、草の葉に宿る露も霜となる意。菊の花が咲き始め、山の木々の葉は紅葉に入る。
	霜降 (そうこう)	10/23頃	秋も末となり霜が降りるという意。山を紅葉が飾る頃。
冬	立冬 (りっとう)	11/7頃	冬の気が立ち始め、雪の便りも聞かれるという意。北国では初雪の知らせも届き、関東では空っ風が吹く頃。
冷(ひ)ゆる、寒さが威力を振(ふ)るうの意から	小雪 (しょうせつ)	11/22頃	寒さがまだ深まらず、雪も僅かであるという意。冷え込みが厳しくなる季節。木々の葉が落ちる。
	大雪 (たいせつ)	12/7頃	陰気が積んで雪となり、甚だしくなるという意。北風も次第に強く、霜柱を踏む頃。山々は雪の様相。
	冬至 (とうじ)	12/22頃	正午の太陽が最も低く、日照時間も最短。冬至南瓜や柚湯、冬至粥の慣習あり。
	小寒 (しょうかん)	1/5頃	寒気が最高とまでいかないが、降雪しきりになる。寒の入りの日。池や川の氷も厚みをます頃。
	大寒 (だいかん)	1/20頃	北風が吹き、雪もひどく、寒気ますます加わる、一年で一番寒い頃。